

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



2025.9
No. 782

目次

[大学の動き]

- 名誉教授懇談会の開催 6191
- 「ウクライナ留学生との懇談」を開催 6191
- 島津製作所との新たな包括連携協定を締結 6193
- 京都大学ここのえ会主催 第3回キャリアイベントを開催 6193
- KuSuKu 設立2周年記念「夏休み! 親子で楽しむものがたりとジャズのコンサート」を開催 6194
- 現役留学生と卒業留学生が繋がる会「教えて先輩! 卒業後の進路、そのリアル」(presented by ベトナム協会、中国留学生学友会)を開催 6195

[部局の動き]

- ギヨーム・ルクセンブルク大公国皇太子殿下が iPS 細胞研究所を視察 6199
- 医学研究科・医学部創立125周年記念式典・祝賀会を挙行 6200

- 「京都大学宇治おうばくプラザ第15回たそがれコンサート」を開催 6201

[寸言]

- 京大で全部可能。AIと共生するアニミズム日本人
亀田 勇人 6203

[随想]

- 情報って何だ?
名誉教授 美濃 導彦 6204

[洛書]

- 人生経営と管理会計
セルメス鈴木 寛之 6205

[訃報]

- 武田 信生 名誉教授 6206
- 櫻井 正一郎 名誉教授 6207



京都大学

所属・職名については、行事開催時点のものです。

大学の
動き

2025 年度名誉教授懇談会を開催

2025年8月26日(火)に、百周年時計台記念館にて、2025年度の名誉教授懇談会を開催しました。104名の名誉教授のほか、総長、理事、部局長など合わせて144名が参加しました。

名誉教授懇談会では、新たに名誉教授の称号を授与された教授による講演会を行うことが慣例となっており、本年度は佐藤卓己 名誉教授(教育学研究科)による「情動社会のメディア史」と題した講演が行われました。

その後の懇親会は、湊 長博 総長による本学の近況を交えた挨拶に続いて、井村裕夫 元総長による乾杯の発声により始まりました。会場では、出席者それぞれの在職当時の思い出や出来事、近況報告等に話が弾み、盛会のうちに終了しました。



講演をする佐藤名誉教授



挨拶をする湊総長



乾杯の発声をする井村元総長



懇親会の様子

(総長オフィス)

[目次に戻る](#)

「ウクライナ留学生との懇談」を開催

2025年7月7日(月)にウクライナ留学生との懇談を清風荘にて開催し、留学生5名のほか寄付者らが参加しました。

本学では、ウクライナ情勢に関し、本学の学術交流協定校を含むウクライナの大学・学術機関の関係者に対して支援を行うため、2022年に「ウクライナ危機支援基金」を設立し、危機的状況に置かれた学生を本学において受け入れ、教育や研究活動を支援してきました。

当該学生の検定料・入学料・授業料は、本学の負担による免除とし、生活費などの支援を目的とした奨学金についても本基金を活用し、学習・研究を継続できるよう支援しています。これまでに37名の留学生を受け入れたほか、今年2025年10月からは新たに18名の受け入れを決

大学の
動き

めています。

今回、本基金に多大なるご支援をいただいている寄付者代表として建築家の安藤忠雄氏をお招きして、ウクライナの留学生5名、湊 長博 総長、稲垣恭子 理事・副学長との懇談の場を設けました。

はじめに稲垣理事・副学長より開会の挨拶があり、全国各地から寄せられた支援へのお礼が述べられ、本学が国際社会の一員として今後も困難な状況にある学生に学びの場を提供し続ける決意が語られました。

続いて5名の留学生から発表があり、日本での勉学や生活などを紹介しました。留学生からは楽しかった思い出などが披露され、「母国の大学に比べて京都大学の学びはとても自由で、興味のあることを追求することができた」、「“普通”の学生生活を送れたことが何より幸せだった」など感謝の気持ちを伝えました。

これに対して安藤氏より、「私は建物で社会に貢献してきた。皆さんも京都大学で学んだことを活かし、目標をもって未来の母国のために新しい世界を切り拓いてほしい」とエールが贈られました。

閉会の挨拶では、湊総長が留学生たちの学問と生活の両立における研鑽への敬意とねぎらいの言葉を述べ、「皆さんが京都大学で学んだ知見や対話の精神、そして国際的視野を携えた人材として、社会に力を与える存在として活躍されることを期待している」と締めくくりました。最後に全員で記念撮影を行い、会は幕を閉じました。

学びの場は平和で開かれたものでなければならないという信念のもと、本学は国際連帯の精神を持ち続け、知の橋をかけていきたいと考えています。

【関連リンク】

ウクライナ危機支援基金については、以下のリンクをご覧ください。

ウクライナ危機支援基金

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/ukraine/>



懇談の様子 1



懇談の様子 2



集合写真

(成長戦略本部)

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

島津製作所との新たな包括連携協定を締結

本学と株式会社島津製作所は、社会課題の解決に資するイノベーションおよび新事業の創出とグローバルな高度人材育成を目的とする包括連携協定を締結し、2025年7月11日（金）に記者会見を行いました。

両者は2022年より「社会課題の解決に資する革新的な技術の獲得および新事業の創出」を目的とした3か年の包括連携契約を締結して、グリーンイノベーションやヘルスケア領域に



左から、室田浩司 副理事・成長戦略本部長、湊 長博 総長、山本靖則 島津製作所代表取締役社長、西本尚弘 同常務執行役員 CTO

において事業テーマ探索や共同研究に取り組んできました。このたび、従来の協定を発展させて新たな包括連携協定を結び、取り組みテーマや領域を拡大します。契約期間は5年間です。

新たな包括連携においては、島津製作所の社会価値創生領域（グリーンイノベーション、ヘルスケア、マテリアル、インダストリー）を対象とし、従来の連携の中心であった自然科学に加えてデータサイエンスや人文社会科学も含めた文理融合の要素を高めます。「両者の経営層が選出する京都大学の卓越研究者による未来社会を見据えた大型研究」や「京都大学の研究者・学生の公募提案を端緒とする研究」を実施します。これらによって、革新的な技術の開発と事業化を促進します。

また、本学に島津製作所の社員を派遣する従来の「REACHプロジェクト キャリア」に加え、修士課程修了時に学生を島津製作所で採用し、博士後期課程に社員として派遣する「REACHプロジェクト ストレート」を開始し、高度専門人材育成に取り組めます。さらに両者が有する国内外拠点を活用し、グローバルに活躍できる人材の育成に努めていきます。

（成長戦略本部）

[目次に戻る ↗](#)

京都大学ここのえ会主催 第3回キャリアイベントを開催

京都大学ここのえ会主催「京大卒女性が語るキャリアストーリー ～悩める京大生が進路を切り開くための2時間～」が、2025年6月14日（土）に国際科学イノベーション棟 HORIBA シンポジウムホール にて開催されました。

「京都大学ここのえ会」（以下、ここのえ会という。）は、本学出身の女性が学部や研究科の枠を超えて交流しながら、本学の男女共同参画推進事業や女子学生、女性研究者などへの緩やかな支援を行う同窓会として2021年11月に設立されました。

冒頭、ここのえ会長である浅山理恵 SMBCオペレーションサービス株式会社取締役副社長（経済学部・1987年卒業）から挨拶があり、続いてパネルディスカッションが実施されました。パネルディスカッションでは、ここのえ会副会長である稲垣恭子 理事・副学長（教育学研究科・1981年修了）がモデレーターを務め、ここのえ会理事の大浦綾子 野口&パートナーズ法律事務所パートナー弁護士（法学部・2003年卒業）、会員の岸畑聖月 株式会社With Midwife 代表取締役（医学研究科・2016年修了）、および黒田聖奈 株式会社日本政策投資銀行副調査役

大学
の
動き

(農学研究科・2022年修了)の3名がパネリストとして登壇しました。

パネリストからは、自己紹介の後、学生時代にどのようなことに力を入れ、それが現在のキャリアに役立っているかが語られました。また、情報があふれ、タイムパフォーマンスやコストパフォーマンスが意識される現代においても、キャリアを選ぶ上では、自分に合う「カルチャーフィット」を意識することも大切であると述べられました。そして最後には、女子学生に向けたエールが送られました。

続いてカフェトーク(座談会)が2部構成で開催されました。第1部では、1班当たり会員2～3名、学生5～6名の少人数のグループに分かれ、第2部では、会員と学生が自由に交流しました。第1部、第2部ともに、学生からこのえ会会員に対して熱心な質問が寄せられ、このえ会会員からも熱意のこもったアドバイスやメッセージが送られました。

参加した学生からは、「それぞれ異なる角度からお話を伺えたので、自分ならどうするかイメージが描きやすく、非常に参考になりました。将来のイメージができないという漠然とした不安が和らぎ、人生の一部としてのキャリアを築くためのヒントをたくさんいただきました」、「それぞれの方のめったに聞くことのできない貴重なお話を聞くことができ、とても勉強になりました」などの感想が寄せられました。



パネルディスカッションの様子



カフェトークの様子

(成長戦略本部)

[目次に戻る ↗](#)

KuSuKu 設立2周年記念「夏休み!親子で楽しむ ものがたりとジャズのコンサート」を開催

学童保育所「京都大学キッズコミュニティ KuSuKu(クスク)」では、ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン&ビロギング(DEIB)の推進を目的に、公益財団法人文字・活字文化推進機構と共催で、2025年7月27日(日)に、「夏休み!親子で楽しむ ものがたりとジャズのコンサート」を百周年時計台記念館百周年記念ホールにて開催しました。会場には、KuSuKuの利用者をはじめ、約500名が来場しました。

今年はデンマークの童話作家アンデルセンの生誕220年、没後150年、そして「浦島太郎」ゆかりの浦嶋神社(京都府伊根町)が創祀1200年の節目を迎えることを記念し、司会の関岡 香 毎日放送アナウンサーによる「はだかの王さま」や「とこよのくにのうらしまさん」などの朗読や、ピアニストの小川理子 パナソニックホールディングス執行役員による童謡をアレンジしたジャズピアノ演奏を行いました。最後には、アンデルセンの代表作「にんぎょひめ」の朗読をピアノとセッションで披露し、音と言葉が重なり合う静かで温かなひとときとなりました。

大学の
動き

参加者からは「お話と音楽がとてもマッチしたコンサートで子どもがとても楽しめました」、「子どもたちにとって、普段なかなか聞くことがないジャズピアノやプロの朗読に生で触れられるとても貴重な時間となりました」、「子どもがピアノを習っているので即興やジャズのリズムなどにも興味を持つきっかけとなればいいなと思います」といった声が寄せられ、子どもたちにとって新鮮で刺激的なコンサートとなりました。



挨拶をする稲垣理事・副学長



挨拶をする小川執行役員(左)と関岡アナウンサー(右)



小川執行役員による演奏



関岡アナウンサーによる朗読

(人事部(職員育成課))

[目次に戻る ↗](#)

現役留学生と卒業留学生が繋がる会「教えて先輩！卒業後の進路、そのリアル」(presented by ベトナム協会、中国留学生学友会)を開催

本学では、世代を超えた留学生間のネットワーク構築の支援を目的として、今年度から各国留学生団体との共催により、現役留学生(後輩)と卒業留学生(先輩)がつながるイベントをシリーズ開催しています。

【第2回 ベトナム協会】

第2回は2025年5月29日(木)に国際科学イノベーション棟内linkhub@で開催しました。国内外で活躍する先輩留学生2名をスピーカーに迎え、学部生や大学院生、研究員や教員など23名が参加しました。

会の冒頭では、成長戦略本部より本イベントの趣旨説明がありました。続いて、ベトナム協会長のTuan Vo 理学研究科研究員から、同協会の紹介や講師を務める卒業留学生への謝意が

大学の
動き

語られました。

第1部のトークセッションでは、Tran Thanh Duc フェ農林大学長（地球環境学舎・2012年修了）がオンラインで、起業家のPhilip Long Nguyen氏（農学研究科・2016年修了）が対面で登壇し、母校での学びや卒業後に直面した課題や転機など、自身の歩みを語りました。続いて行われたミニパネルディスカッションでは、ベトナム協会副会長のLam Thi Huyen Dongさん（経済学研究科・修士課程1年生）がモデレーターを務め、モデレーターからの問いかけに対して卒業留学生たちが自身の経験を交えて丁寧に答える場面が続き、現役留学生たちが熱心に耳を傾けている様子が見受けられました。

第2部のネットワーキングセッションでは、ベトナム協会副会長のDao Manh Ducさん（工学部・2年生）からの挨拶に続き、現役留学生が2つのグループに分かれ、卒業留学生を囲んで自由に交流しました。終始和やかな雰囲気の中で会は進行し、終了前には参加者各自が当日を振り返り、気づきを共有する時間も設けられました。



ベトナム協会の紹介をする Vo 会長



トークセッションに登壇する Tran 学長



トークセッションに登壇する Nguyen 氏



モデレーターの Lam 副会長



挨拶する Dao 副会長



会場の様子

大学の
動き

参加者からは、「卒業留学生との出会いや対話を通じて将来をあらためて考え、キャリアに対する考え方が変わる機会となった」との声もあり、現役留学生と卒業留学生双方にとって、継続的な繋がりへの構築に向けた、意義深いひとときとなりました。



Tran 学長とオンラインで交流する現役留学生



Nguyen 氏と交流する現役留学生



集合写真

【第3回 中国留学生学友会】

第3回は中国留学生学友会との共催で、2025年6月20日（金）に国際科学イノベーション棟内linkhub@で開催しました。日本で活躍する卒業留学生2名をスピーカーに迎え、学部生や大学院生、教員、他大学の留学生など26名が参加しました。

会の冒頭では、成長戦略本部より本イベントの趣旨説明がありました。続いて、中国留学生学友会会長の李 明さん（理学研究科・博士課程3年生）が、同学友会の紹介とスピーカーへの謝意を述べました。

第1部のトークセッションでは、国内グローバル企業に勤務する王 甜宇氏（薬学研究科・



挨拶する李会長



トークセッションに登壇する王氏

大学の
動き

2023年修了)と高 新莉氏(工学研究科・2025年修了)が登場し、就職活動や学生時代の思い出などを語りました。続く質疑応答では、企業での経験や同大学修了の意義などの問いかけに卒業留学生在が回答し、うなづく参加者が多数見受けられました。

第2部のネットワーキングセッションでは、中国留学生学友会事務局長の呉 競達さん(エネルギー科学研究科・博士課程1年生)からの挨拶に続き、参加者が2つのグループに分かれて卒業留学生在と交流しました。参加者とスピーカーの年齢が近いこともあり、親しみやすい雰囲気の中で会話が弾み、当日の学びや気づきを振り返り、相互に共有する時間も設けられました。

飛び入りで参加した留学生在も多く、「先輩に相談できて、励まされた」などの声も寄せられ、卒業留学生在と現役留学生在が繋がりを深める貴重な機会となりました。



トークセッションに登壇する高氏



挨拶する呉事務局長



トークセッションの様子



ネットワーキングセッションの様子



集合写真

(成長戦略本部)

[目次に戻る](#)



ギヨーム・ルクセンブルク大公国皇太子殿下が iPS 細胞研究所を視察

2025年7月15日(火)に、ギヨーム・ルクセンブルク大公国皇太子殿下がiPS細胞研究所を訪問され、湊 長博 総長、高橋 淳 iPS細胞研究所長らと意見交換を行いました。会議の冒頭に湊総長が歓迎の挨拶を述べたあと、ギヨーム皇太子殿下が挨拶されました。挨拶の中で、iPS細胞研究への深い関心と、日本とルクセンブルクの研究者が一層共同研究に取り組むことへの期待が語られました。

次に、ケルビン・ファイ 特命講師による同所の研究活動に関する紹介が行われました。ギヨーム皇太子殿下がiPS細胞の安全性について質問されると、高橋所長はiPS細胞を用いたパーキンソン病治験が行われたことに触れ、その治験で安全性が確認されたことを説明しました。

活発な意見交換が行われた後、ギヨーム皇太子殿下および同行の経済使節団は研究棟内を視察しました。途中、第3研究棟5階の濱崎洋子 教授のグループが研究を行うオープンラボを訪問し、ルクセンブルク出身のヤン・プレテマー 特定拠点助教から胸腺に関する研究の説明を受けました。最後に第1研究棟1階の展示コーナーで、iPS細胞を顕微鏡で観察されました。



挨拶されるギヨーム皇太子殿下（左から3人目）



意見交換に参加する湊総長（右から3人目）、高橋所長（右から4人目）およびiPS細胞研究所の研究者



ヤン・プレテマー特定拠点助教（右）から説明を受けるギヨーム皇太子殿下



顕微鏡でiPS細胞を観察するギヨーム皇太子殿下

(iPS細胞研究所)

[目次に戻る](#)



医学研究科・医学部創立125周年記念式典・祝賀会を举行

医学研究科は、2025年7月12日(土)に、京都ブライトンホテルにて「京都大学医学研究科・医学部創立125周年記念式典・祝賀会」を举行了。

本記念行事は、医学部および医学研究科の前身である医科大学医学科、ならびに現在の医学部人間健康科学科の前身である医科大学附属医院看護婦見習講習科が、1899(明治32)年に設置されてから125周年を迎えたことを記念して举行的ものです。当日は、政府・自治体や関係大学、寄付者、名誉教授など学外からの参加に加え、本学役員や部局長、関係教職員など学内からも多数の参加がありました。また、記念式典での講演を通じ、若い世代に向けてメッセージを伝えるため、医学部および医学研究科の学生も招待しました。

記念式典は、伊佐 正 医学研究科長の式辞の後、湊 長博 総長の挨拶に続き、奥野 真 文部科学省大臣官房審議官、夜久 均 京都府立医科大学学長、坂井義治 一般社団法人芝蘭会常務理事、宮島朝子 京都大学名誉教授、藤原真治 京都大学医学部校友会会長が祝辞を述べました。

記念講演では、はじめに、湊総長より「Mission of the Modern Research Universities」と題し、京都大学および医学研究科・医学部の125年の歴史と今後の展望についての講演があり、続いて、創立125周年記念事業の多目的施設の建設に係る埋蔵文化財調査をお願いした伊藤淳史 文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター助教による「医学部構内の発掘調査から歴史を探る」と題した講演がありました。続いて、グローバルに活躍する卒業生3名による講演があり、諸岡健雄 PHコンサルティング合同会社代表社員から「少数与党時代の医療政策決定のプロセス」と題した講演、河野優子 カリフォルニア大学サンディエゴ校消化器肝臓内科臨床教授、放射線



式辞を述べる伊佐研究科長



挨拶を行う湊総長



祝辞を述べる奥野審議官



祝辞を述べる夜久学長



講演する伊藤助教



講演する諸岡代表社員



講演する河野教授



講演するレシャード理事長

部局の
動き

科臨床教授から「教え、共に学ぶ—京都からアメリカ臨床の現場へ—」と題した講演、レシャード・カレド 医療法人社団健社会理事長、レシャード医院院長から「患者に寄り添う—国内・海外を問わず—」と題した講演がありました。

記念講演に続いて、伊佐研究科長をファシリテーターとし、卒業生3名と皮膚科学の梶島健治 教授、機能微細形態学の斎藤通紀 教授、腎臓内科学の柳田素子 教授、そして次期医学研究科長に選出された肝胆膵・移植外科学の波多野悦朗 教授により、「グローバル」、「自由の学風」、「リーダーシップ」をキーワードとしてラウンドテーブルを行いました。多様な経歴を持つ登壇者が、それぞれの考える「グローバル」や「自由の学風」などについて述べ、今後、京都大学医学研究科・医学部が何を目指していくのかについて、活発なディスカッションを行いました。

記念式典の終了後に行われた祝賀会では、伊佐研究科長、井村裕夫 京都大学元総長より挨拶があり、高折晃史 医学部附属病院長による乾杯の発声で始まりました。しばらくの歓談の後、河本 宏 医生物学研究所長、高橋 淳 iPS細胞研究長および元医学研究科長の成宮 周 京都大学名誉教授、また、現役教授を代表して波多野教授によるスピーチがあり、医学研究科・医学部のさらなる発展に向けて熱いメッセージが述べられました。最後に、今中雄一 副研究科長が謝辞を述べ、盛会のうちに閉会となりました。



ラウンドテーブルの様子



祝賀会の様子

(大学院医学研究科)

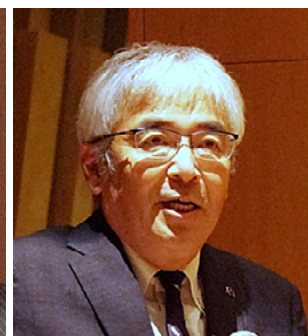
[目次に戻る](#)

「京都大学宇治おうばくプラザ第15回たそがれコンサート」を開催

2025年6月27日(金)に宇治キャンパスの宇治おうばくプラザにて、「京都大学宇治おうばくプラザ第15回たそがれコンサート」を開催しました。本コンサートは、本学と地域の方々との交流を深めることを目的として、2010年度から行っているもので、今回は京都大学交響楽団を迎え、市民ら244名が来場しました。



開会挨拶をする片平所長



松村市長の来賓挨拶を代読する貝副市長

部局の
動き

コンサートは、片平正人 エネルギー理工学研究所長の開会挨拶で始まりました。続いて、連携協定を締結している宇治市の松村淳子 市長の来賓挨拶（貝 康規 副市長代読）がありました。2部構成での京都大学交響楽団の演奏は、木管五重奏、金管五重奏、弦楽四重奏の順に行われ、来場者は熱心に耳を傾けていました。

最後に、島川祐一 化学研究所長から閉会挨拶があり、本コンサートは盛況のうちに幕を閉じました。



木管五重奏による演奏の様子



金管五重奏による演奏の様子



弦楽四重奏による演奏の様子



閉会挨拶をする島川所長

(宇治地区事務部)

[目次に戻る ↗](#)

寸言

京大で全部可能。AI と共生
するアニミズム日本人

亀田 勇人



1回生で4年生の一般相対論も卒業単位も取り、ノーベル物理学賞（候補）の先生の大学院講義も3回聞き、工、経、法、教の各ゼミなどに参加して、学部卒ながら大いに学ばせて頂いた。当時CERNの写真を公開閲覧できるWWWが物理棟に入り、論文もネットで見られる威力に圧倒され、学者教授になる道は中断し、社会へ。NYの資本市場を理解し、京都の半導体ルームで経理IRを1年半、バブル頂点の時価20兆円のソフトバンクに転職、暴落を予見も保有株は売らず、翌年には孫さんと合流し、ヤフーBBの事業企画、創業から通信会社買収まで担当、約6年社長室につめた。その間まだ数百億程度のジャック・マーとの5兆円になったJVや、米系IT企業との協業で有名社長たちとも連携。その後SBIへ移り、金融全般、教育、不動産のトップ企業を経験後、2016年に自分の投資会社の一つを事業化し、不動産×ITで100億円規模の不動産を建設販売。昨年上場したAIトークン、耐震プロジェクト「Namazuナマズ」は、スマホ・AI・ブロックチェーンを活用し、大絶賛され、京大、東大の先生、ゼネコン、通信、保険会社、内閣府、各省庁ともアライアンスを組み、連携して推進中。不動産ブロックチェーンのZweichain上に発行され、AIデータも管理する。日本では上場準備中の不動産屋名鑑で地震AIや建設&鑑定士AI「AutoCalc」が稼働し、ブロックチェーン登記情報も扱う。法の成果としては、認知症時代に有用な民事信託の「LegalToken」も上場予定だ。ブロックチェーンは中央集権的に偏りすぎず、AIと/も制御する堅牢な補完的公共データベースにするのが有用で、京都大学の創立時の立ち位置に重なる。物理出身の元ソニーの国際弁理士、元財務省の人気経済学者、情報出身の米系投資銀行保険の元幹部など、皆二刀流チーム。シンギュラリティ後の発明が自動化するというロヨラや空海も羨望の時代に、デジタルツインRWAに取り組むには心強い。今後は卒業生のネットワークも活かしつつ、地震多発地域の海外政府や機関、財閥とも連携していく。

京大は、産業への貢献度でも世界1位（THE世界大学ランキング2025による）。ブラックショールズの「伊藤のレンマ」も数学科だ。シリコンバレーは多次元版表計算ソフトは作れても、それを活用応用する産業がない。NASAなど航空宇宙系に優秀な夢ある男たちが集うが、京大や京大卒業生ネットワークには全て揃っている。より凄い宇宙船やロボットを作れない理由はない。日本は地震AIが有利だが、この時代、ガンダムレベルの機動力ある衛星や、最高水準のAI&量子素材群、核融合など、新ゼロエネルギー、できれば反重力装置で宇宙際見学までできると京大らしい。ぜひ、やってコラボしましょう。最後に、iPSで歯の再生治療が六本木の歯科に来るのを待ってます。医学部様、法経工様、連携宜しく。

（かめた はやと、ZWEISPACE JAPAN Founder&CEO、平成9年理学部卒業）

[目次に戻る ↗](#)

随 想

情報って何だ？

名誉教授 美濃 導彦



高校時代、情報という言葉聞いて何かいい響きだと感じた。情報に関する学科としては京都大学に情報工学科があり、コンピュータはこれから重要になりそうなので入学した。当時の情報専門科目の講義の多くは実践経験が中心で学問の匂いがしなかったが、私にとっては面白かった。特に、情報理論はシンボル（記号）の意味を除外してその確率だけで情報の量を定めている。どう扱っていいかわからない問題をサイエンスとして定式化する素晴らしい方法であった。情報基礎論講座の研究室に入って、引き続き情報とは何かを研究しようとしたが、研究内容に情報はなく、画像処理の研究を始めた。研究は面白かったが、画像をいくら処理してもそこに情報はない。あるのは、画像に写っているものだけで、その名前（これが意味）を出すのが精一杯である。そんな中で、情報はそれを見る人間の中で現れるものではないかと思うようになった。京都大学で教員になってからは、「どうすれば情報を扱えるのか」悩みながら画像を中心とした研究で学生さんと楽しく過ごしてきた。

定年退職前に、理化学研究所からお誘いがあり行くことにした。そこでは、物理、化学、生命科学などいろいろな研究分野の話を聞く機会に恵まれた。他の研究分野との交流はすごく新鮮であり、大きな刺激を受けた。細胞をいくら観察しても生命はどこにあるかわからない、脳をいくら解析しても心はどこにあるかわからない、でも研究者は嬉々として研究を進めている。これは情報の問題と本質的には同じではないか気がついた。京都大学は総合大学であるのに学内の研究交流は少なかったことが残念であった。

ちょうどその頃、所内で進めてきたロボットプロジェクトの推進が課題になり、専門が近いので私が引き受けた。これが、今、けいはんなで推進しているガーディアンロボットプロジェクトである。情報社会は、情報が作り出すサイバー世界が現実の世界であるフィジカル世界と重なり合ったもので、ロボットは、サイバーとフィジカルの間存在し、この間での情報のやりとりを担うものである。フィジカル世界での認識機能をロボットに持たせ、自律的に動作させれば、人がロボットに心を感じるのではないかという仮説を立て、心理学、ロボット工学、画像、音声、言語の研究者、および京都大学の情報学研究科の先生方と共同研究して検証することにした。ロボットアーキテクチャの中心にミンスキーの心のモデルを用いて、科学的ではなく構成的に研究を推進している。実装したロボットの内部で処理しているのは、やはり画像、音声、言語であり、情報ではない。ところが、このロボットを外から見ると、なんとなくロボットが心を持っており、情報を扱っているように思えるではないか！

本当に情報が扱えた！いやまだまだでは？悩みが尽きない楽しい毎日である。

（みのう みちひこ、平成 30 年退職、元学術情報メディアセンター教授、
現在理化学研究所情報統合本部ガーディアンロボットプロジェクトディレクター、
京都情報大学院大学副学長、専門は情報工学）

[目次に戻る ↗](#)

洛 書

人生経営と管理会計

セルメス鈴木 寛之



少し前になりますが、岩尾俊兵著『世界は経営でできている』（講談社現代新書）のオンラインの紹介記事がふと目に留まりました。何気なく読んでみると、「誰もが人生を経営する当事者である」という文面に行き当たりました。その瞬間、我が意を得たりと思いました。担当科目の「管理会計」（学部）および「Managerial Accounting」（大学院）のそれぞれの初回ガイダンスで、少しでも多くの学生・院生さんに履修してもらうべく私が用いている宣伝文句と同じ趣旨だったからです。

経営者をはじめとする企業内部の利害関係者のための会計である管理会計と私が出会ったのは、公認会計士を志して一橋大学商学部に入學した2004年春のことでした。一年生向けの入門科目「会計学概論」を通じ、その出会いの「仲人役」を果たしてくださったのが、財務会計がご専門の安藤英義先生とタッグを組んで講義を担当されていた、恩師の廣本敏郎先生でした。学期後半に始まった管理会計部分の初回講義で、管理会計の歴史と絡めて廣本先生が強調されていたのが、「米国の大規模企業を前提に生成・発展してきた管理会計であるが、諸君が学んだ知識を実践する際には、自らが実際に置かれた状況に鑑みて適否を判断し、必要に応じて取捨選択できるようになって欲しい」という点でした。

この点が心に残っていた私はその後、所属する体育会卓球部が学園祭に出店する模擬店で地元山梨の郷土料理である「ほうとう」を製造販売することになった際に、早速知識を実践に移すことにしました。具体的には、模擬店が置かれた状況を踏まえつつ、利益を出すためには最低何杯のほうとうを売り上げる必要があるかを損益分岐点分析という技法を用いて算出し、他の部員に販売目標として共有しました。また、同じ技法を用いていわゆる「原価割れ」をしないギリギリの値下げラインも算出し、最終日のストック売り切りのための販売促進に活用しました。その結果、無事に黒字を達成できたのでした。

三年生になりゼミに所属する頃、五年一貫コースでの大学院進学を考えていた私は、迷わず廣本ゼミの門を叩きました。そこで出会ったのが、稲盛和夫氏により考案された管理会計技法のアメーバ経営でした。このアメーバ経営を作り上げる中で稲盛氏が特に気にかけてことの一つが、会計知識を持たない現場のリーダーにも簡単に理解できる家計簿のような仕組みとすることだったそうです。

ここまで来て、企業経営と人生経営には驚くほどの共通点があることに思い至りました。車や住宅の購入は設備投資の意思決定、月々の家計のやり繰りは予算管理、果ては週末に映画館で映画を観るか、自宅でDVDを観るかという選択すらも、人生経営における業務的意思決定と言えます。こうした人生経営にも役立つ会計が管理会計だというのが、冒頭の私の宣伝文句だったのです。

もしこの宣伝文句が皆さんの心にも響くようであれば、ぜひ管理会計の世界を覗いてみてください。

（せるめすすずき ひろゆき、大学院経済学研究科准教授、専門は管理会計学）

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、武田信生 名誉教授、櫻井正一郎 名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

以下に各氏の略歴、業績などを紹介します。

武田 信生 名誉教授

武田信生先生は、令和7年6月6日逝去されました。享年81。

先生は、昭和42年京都大学工学部衛生工学科を卒業、同44年同大学院工学研究科修士課程を修了、同53年京都大学博士（工学）の学位を授与されました。京都市衛生局での技術吏員としての勤務を経て、同45年7月京都大学工学部助手に採用され、助教授を経て、平成7年教授に就任、工学部衛生工学科衛生設備学講座を担当されました。同10年4月京都大学大学院工学研究科環境工学専攻長、同13年4月京都大学工学部地球工学科長に就任し、同19年3月に定年退職を迎えられました。同年4月からは、京都大学名誉教授を授与されるとともに、立命館大学客員教授 エコ・テクノロジー研究センター長に就任され、同24年3月に立命館大学を退職されました。この間、同17年より京都大学大学院工学研究科附属流域圏環境質研究センター長をはじめとし、各種委員を務め、大学の管理運営に貢献されました。また、国際交流においては、中国・清華大学との交流を積極的に推進され、都市環境工学専攻内に日中環境技術研究講座（寄附講座）および清華大学・深圳キャンパスに京都大学—清華大学環境技術共同研究・教育センターを開設することに尽力されました。



先生は環境工学、中でも廃棄物の処理・処分・管理に関する研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、廃棄物工学分野において多大な貢献をされました。これらの研究成果は、208編の学術論文にまとめられ、国内外で高く評価されています。主な著書に『日中英 廃棄物用語辞典』、『地球温暖化と廃棄物』などがあります。

行政関係においても、環境省中央環境審議会臨時委員・専門委員をはじめ、各種委員会の委員を数多く歴任し、平成18年6月には、環境省より永年の功労が認められ、環境保全功労者として環境大臣賞を受賞されました。また、京都大学環境衛生工学研究会、廃棄物学会などにおいて、会長、理事、評議員などの要職を歴任されました。これら一連の教育研究活動、学界活動により、同12年5月に廃棄物学会論文賞、同13年10月に大気環境学会論文賞を受賞されました。このように武田先生は、廃棄物工学分野において、研究開発、政策研究をリードし、我が国の技術政策および技術教育に多大な貢献をされました。それらの功績は実に大きく顕著なものです。

（大学院工学研究科）

[目次に戻る](#)

訃報

櫻井 正一郎 名誉教授

櫻井正一郎先生は、令和7年6月21日逝去されました。享年89。

先生は、昭和38年京都大学文学部英語英米文学科を卒業、同41年同大学大学院文学研究科修士課程を修了、同42年同博士課程を中退し、大阪府立大学教養部助手、大阪女子大学学芸学部講師を経て、同46年京都大学教養部助教授に就任されました。平成元年教授に昇任、同11年総合人間学部を停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。退官後は甲子園大学教授、龍谷大学特任教授を務められました。

先生は教養部・総合人間学部において英語教育を通じて一般教育に貢献するとともに、総合情報メディアセンターの創設に尽力されました。また、国際交流を推進して、多数の外国人学者の招聘に協力し、他大学の外国人教員を加えて英語のみを用いた「モダン・ポエトリ・セミナー」を20年間組織されました。

先生は英詩を専攻され、ルネサンス詩について、イギリス型ソネット（14行詩）の独自な様式に含まれている諸問題を探求するとともに、20世紀詩について、フィリップ・ラーキンなどを日本に紹介され、上記「セミナー」から生まれた編著 *The View from Kyoto: Essays on Twentieth-Century Poetry* において広範囲な現代詩人を紹介されました。

後年はウォルター・ローリーを日本で初めて本格的に研究され、『サー・ウォルター・ローリー』、『最後のウォルター・ローリー』、『女王陛下は海賊だった』を著されました。また、ローリーの問題詩『シンシア』について初邦訳、評釈し、この詩は準ソネット連作（セミ・ソネット・シーケンス）であると提示されました。この説は『新編ローリー全集』に引用されています。

また、先生は一次資料を重んじ、現地調査を重んじる京都学派の方法を実践し、『京都学派酔故伝』で文学研究にも京都学派があったと提唱されました。

このように櫻井先生は、永年にわたって研究と教育の両面で優れた業績を挙げられ、わが国の学術の発展に大きく貢献されました。

（大学院人間・環境学研究科）

[目次に戻る](#)

